



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 27

世界と痛みを分かち合う

アナウンサー **渡辺 真理**

WATANABE Mari



Photo by Shinichi Kuno

PROFILE

1967年神奈川県横浜市出身。国際基督教大学卒業。1990年TBSに入社、98年フリーに。「ニュースステーション」「地球VOCE」などに出演。現在はBSプレミアム「BS歴史館」、BS朝日「恋するドライブ」などに出演中。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

生まれも育ちも横浜だったせいか、小さいころから日本と海外という垣根をあまり意識せずに生活してきました。初めてできた友達も、近所に住んでいた外国人の女の子。周りに異国の文化があるのが自然で、大人になってもその意識は変わっていません。

この仕事を始めて20年以上になりますが、実を言うと、最初からアナウンサーを目指したわけではありませんでした。就職活動のころは、まさにバブルの時代。とにかくいろいろな企業に面接に行こうと思っていました。そこでご縁があったのがテレビ局で、新人のころは“これをやりたい”というよりも“何でもやってみなきゃ”というのが正直な気持ちでした。結果、スタジオでニュースを読む仕事に長く携わってきましたが、“あくなき挑戦”なのは、どの仕事もきっと同じ。伝えることの難しさは、今も日々感じています。

日本は島国という影響もあって、毎日の生活が海外とつながっている実感を持ちにくい面もありますが、ニュースで

も情報でも、自分の“生活半径”にどれだけ近いかで共感度は変わってきます。国内であれ、海外であれ、大切な友達がいる場所のニュースが流れたら、自然とボリュームを上げて聞くように。一人一人の意識や気持ちは、国境や海という境を軽々と超えてしまうものだと思います。

この仕事に携わってこられた感謝を社会に還元したい。そんな思いを抱き、日本にいながら自分にできることがあればと、数年前から認定NPO法人国境なき子どもたちの活動に参加しています。現地で活動するスタッフや写真家の方のイベントの司会をさせていただいていますが、マスコミの映像だけでは伝わらない空間がそこにはあります。日本には私と同じように、現地に行きたい気持ちはあるけれど、家庭や仕事もあって難しい方もたくさんいると思います。国内の小さなイベントでも、現地の空気をそのまま袋詰めして伝えることができる。それが何かのきっかけになればと思っています。

日本は内向きだと言われていますが、私はそう悲観していないんです。東日本大震災を経験した今、これまで以上に開発途上国と痛みも苦しみも分かち合えるはず。日本は海外のマスコミが驚いたほど、災害時に暴動も略奪も起きず、助け合えた国です。悲しみはない方がいいけれど、経験すればそれだけ、相手の痛みを理解して優しくなれるような気がします。

インターネットが普及し、ワンクリックで何でもできる時代とも相まって、日本でもいずれ「国際協力」が、その言葉自体がなくなるくらいに普通のことになればいいなと思っています。SNSに強い若い世代に、外に開かれた日本を引っ張ってほしい。そう願っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索